

# 佐川町 アンケート調査報告書のまとめ

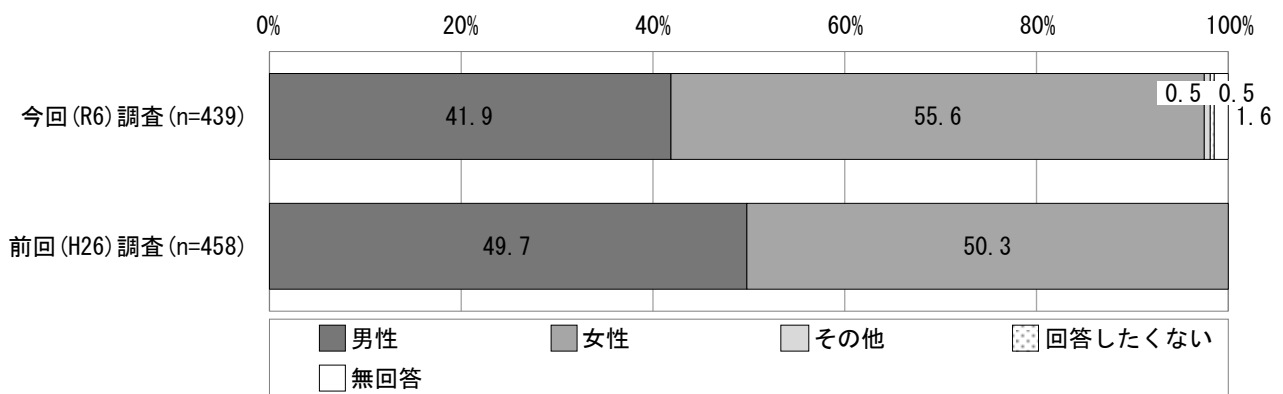
## 1. 調査の概要

本調査は「第6次佐川町総合計画」の策定を目的として実施された。調査対象は、佐川町に居住する一般住民および中高生世代の住民である。調査方法として、一般住民には郵送およびWEBによる回収、中高生には学校配付とWEB回収が用いられた。回収率は一般住民で43.9%、中高生で52.5%であった。

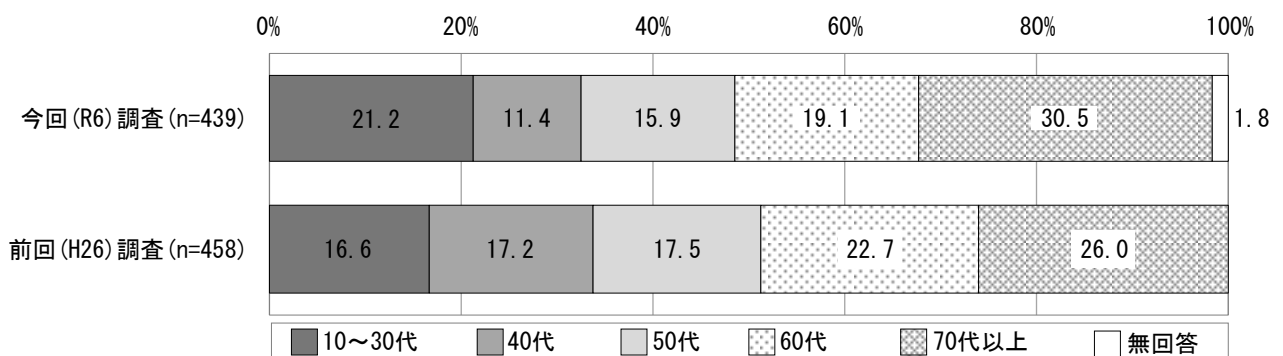
## 2. 住民の基本属性

調査結果によれば、回答者の性別は女性が55.6%と最も多く、年齢層では70代以上が30.5%を占めた。

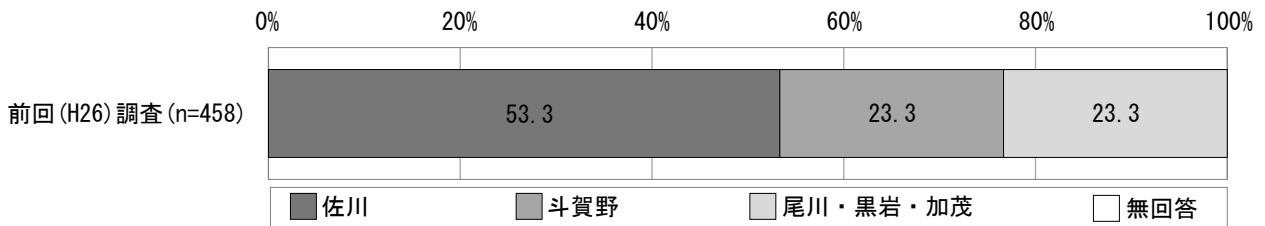
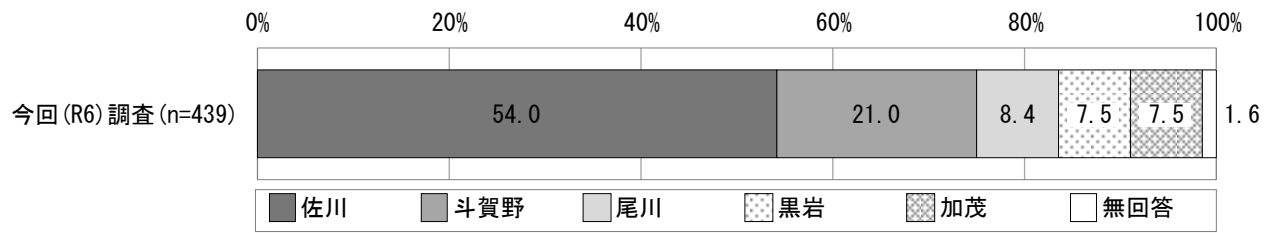
### [性別]



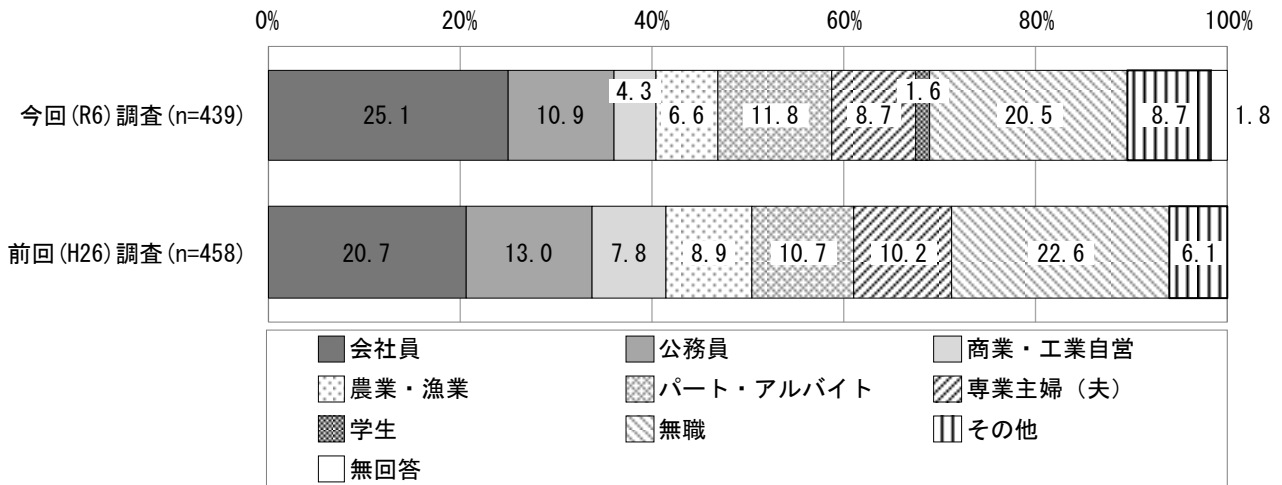
### [年齢]



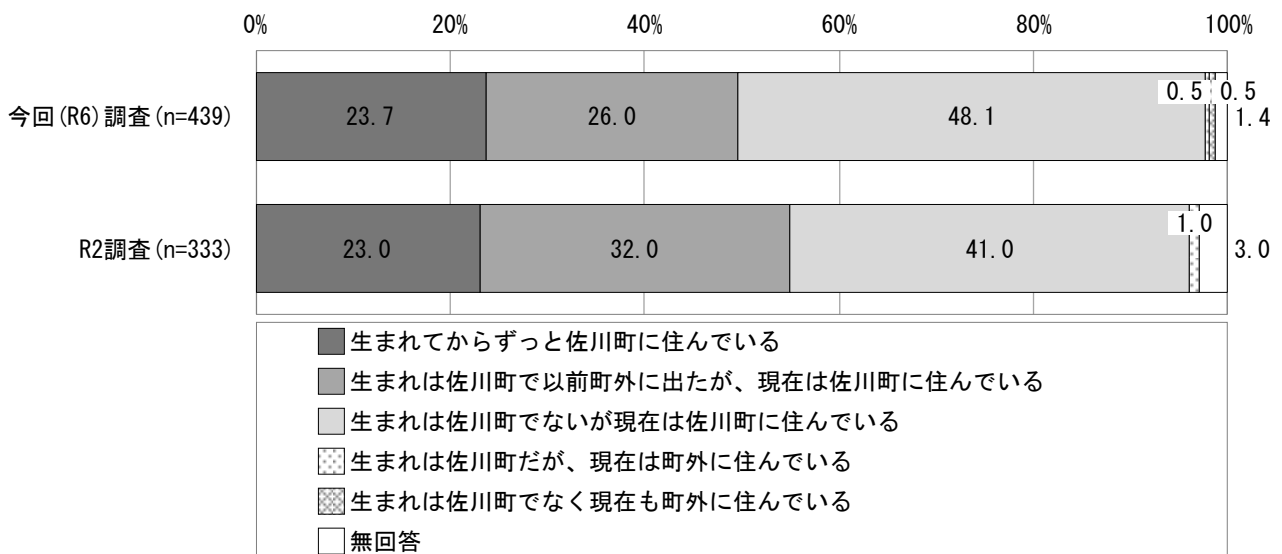
[居住地区]



[職業]



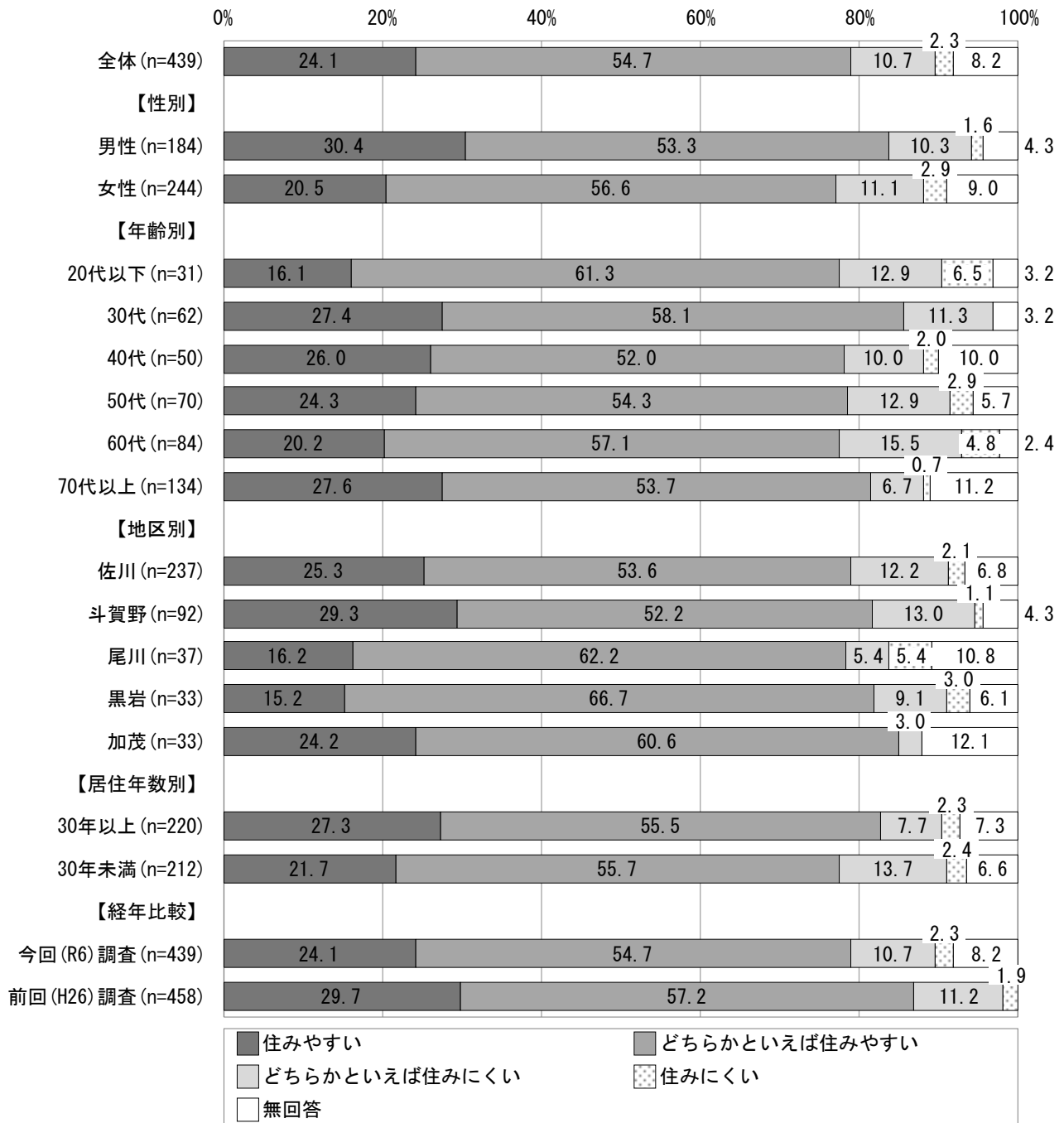
[居住歴]



### 3. 住み心地と地域の評価

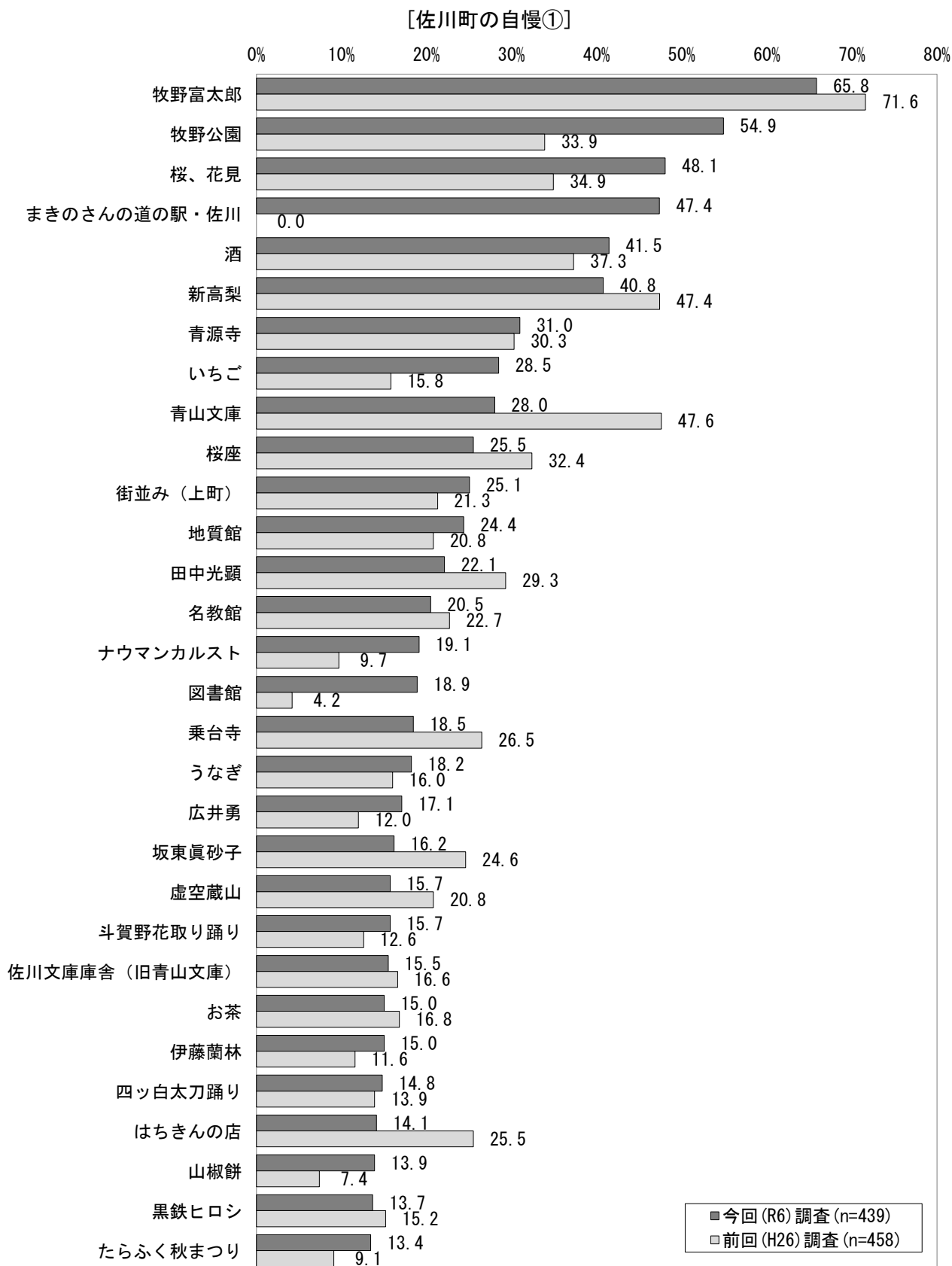
#### (1) 住み心地

住みやすさについて「どちらかといえば住みやすい」との回答が 54.7%を占め、「住みやすい」との回答を合わせると 78.8%に達した。一方、「住みにくい」との回答は 2.3%にとどまった。

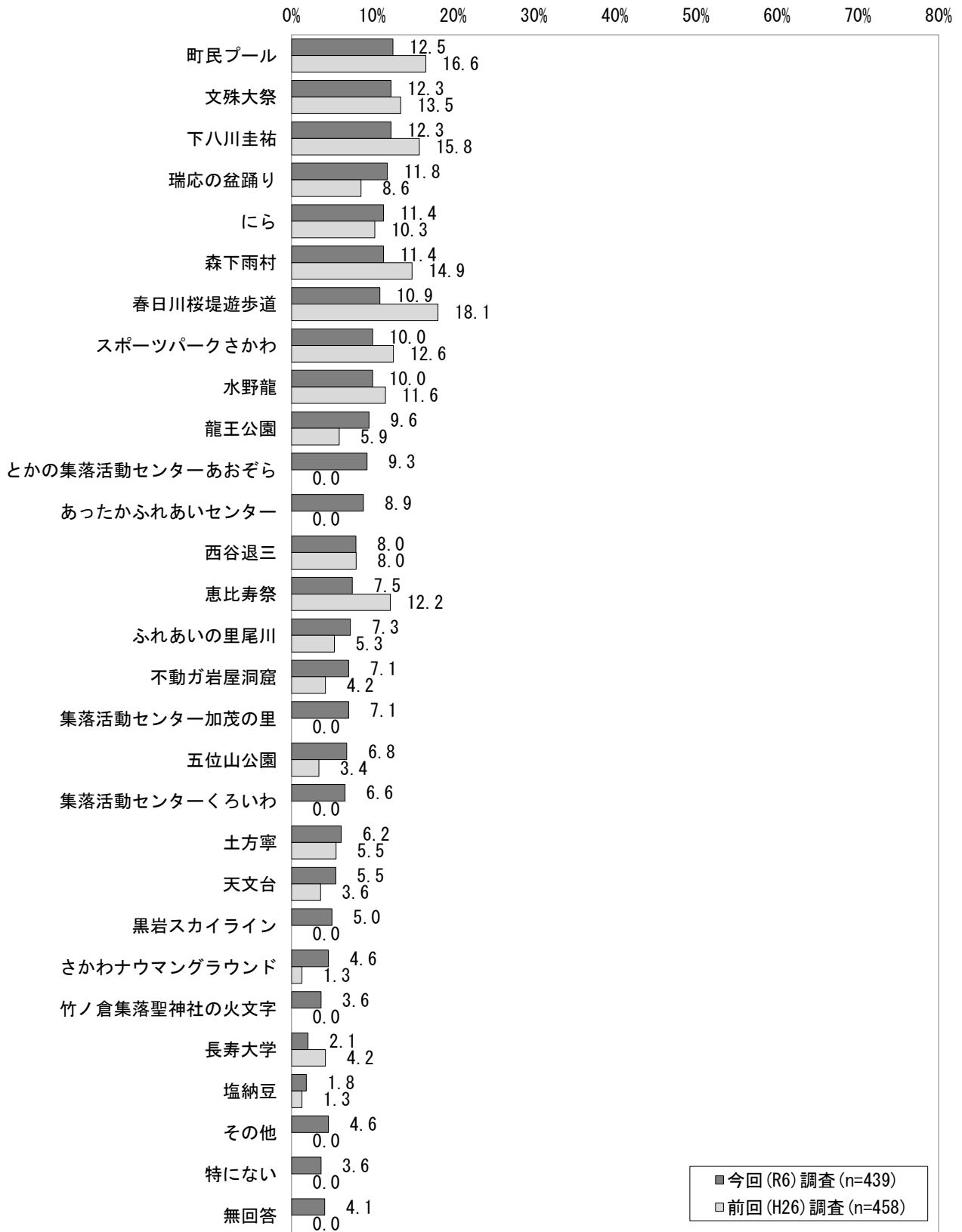


## (2) 佐川町の自慢

佐川町の自慢としては、「牧野富太郎」(65.8%)や「牧野公園」(54.9%)、「桜、花見」(48.1%)が高評価を得た。



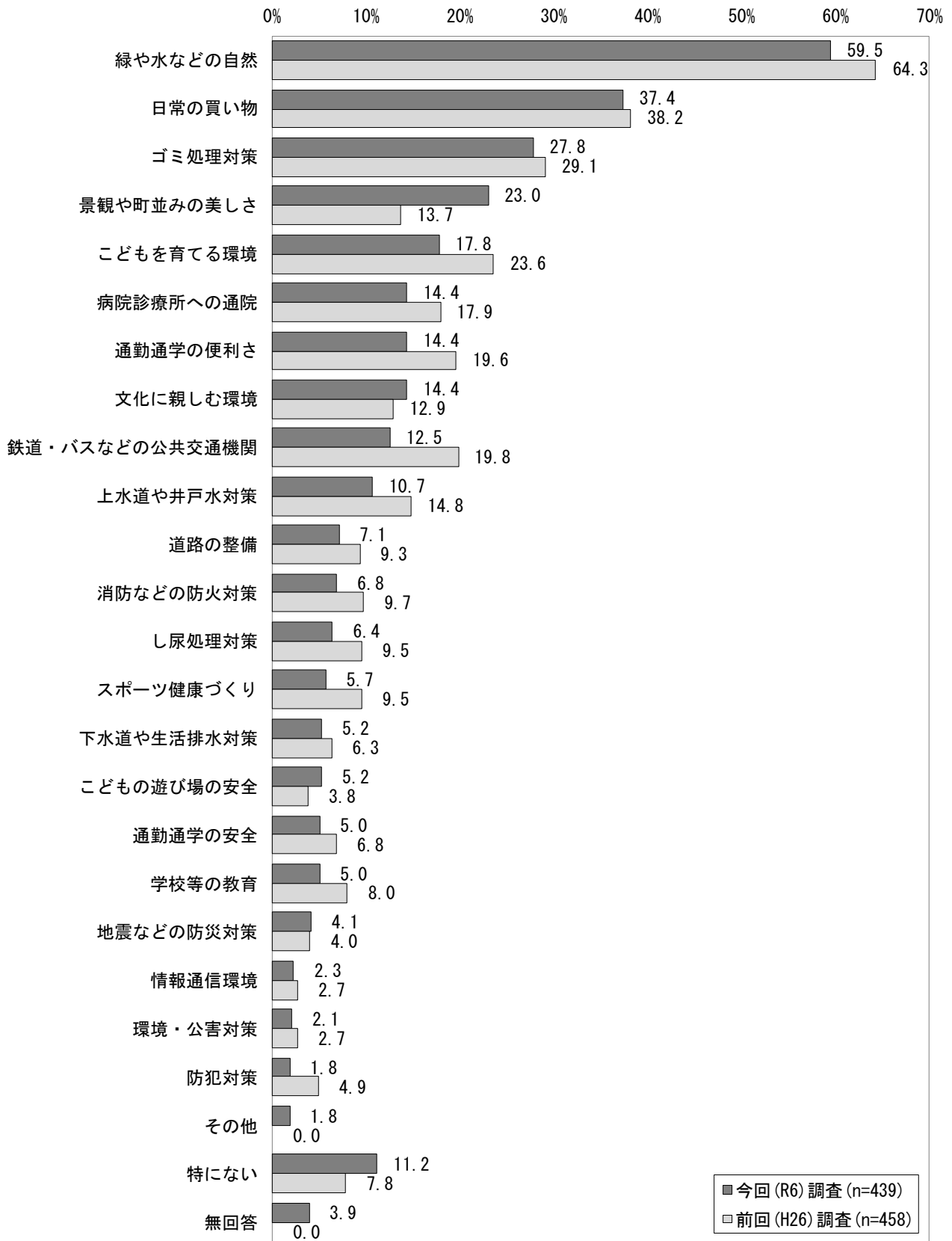
[佐川町の自慢②]



### (3) 生活環境

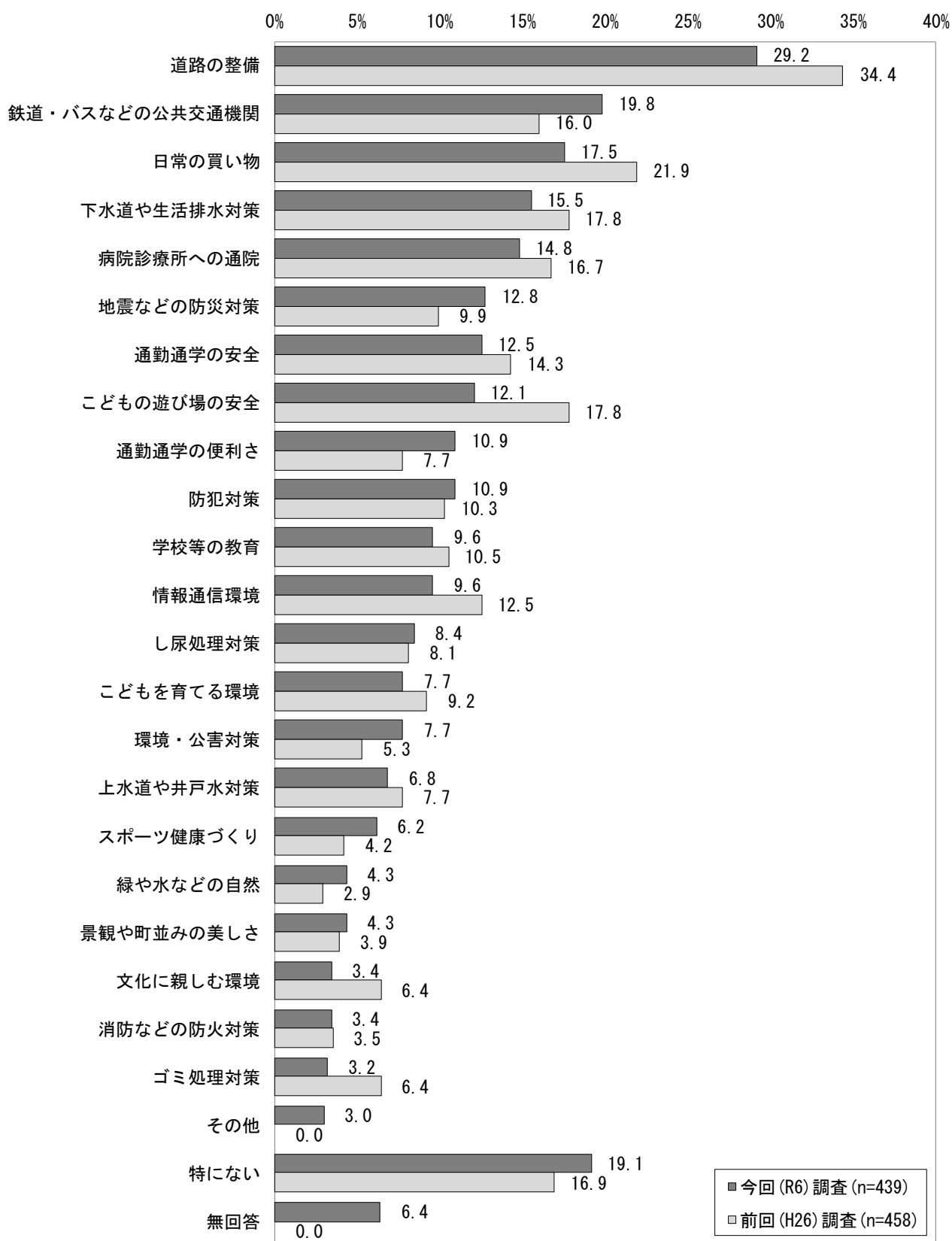
#### ■満足していること

生活環境の満足点として「緑や水などの自然」が59.5%と最も高く、「日常の買い物」が37.4%、「ゴミ処理対策」が27.8%と続いている。



## ■不満に感じていること

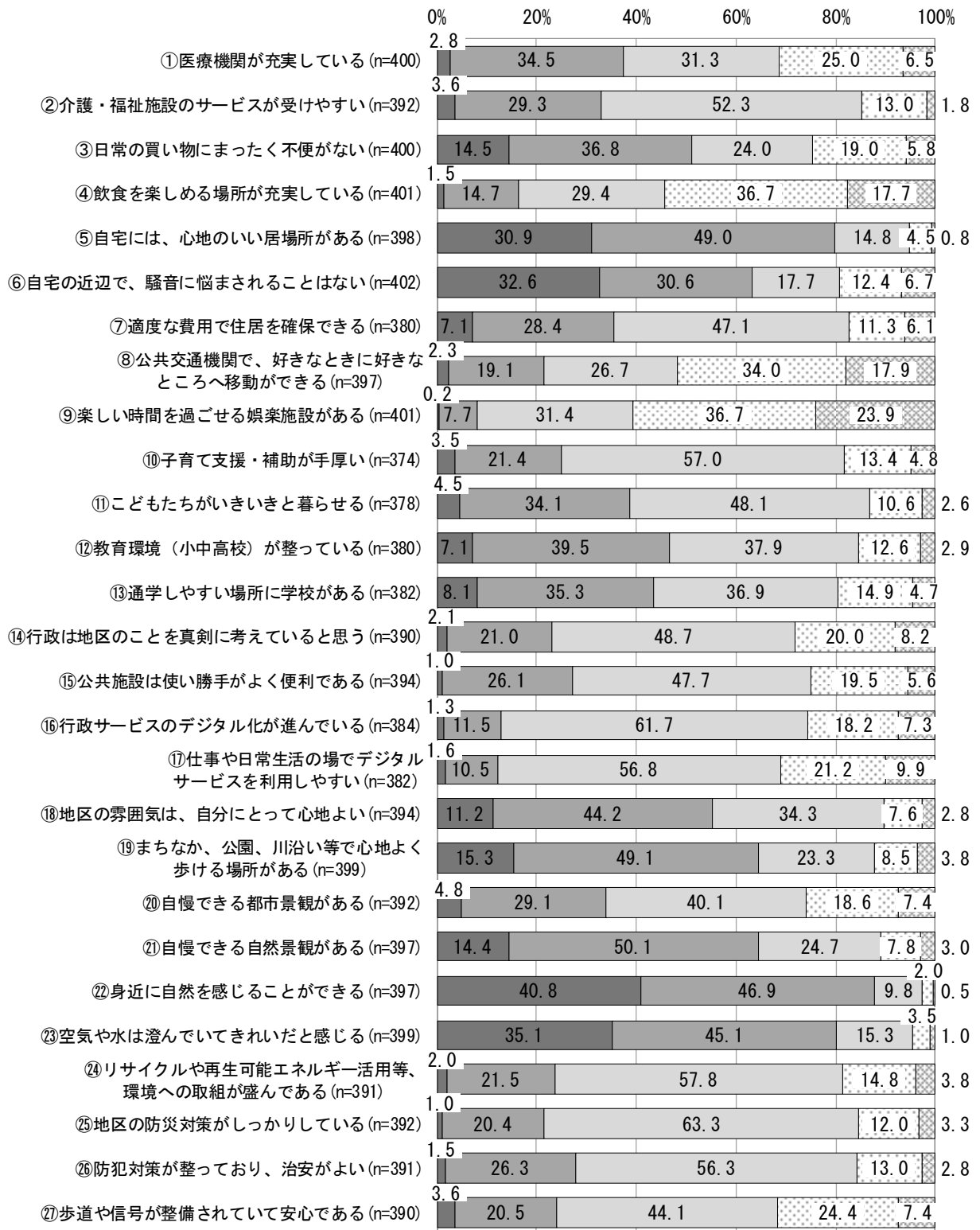
一方、不満点としては、「道路の整備」が29.2%と最も高く、「鉄道・バスなどの公共交通機関」が19.8%、「日常の買い物」が17.5%と続いている。



## 4. 暮らしやすさと満足度

### (1) 生活環境の満足度

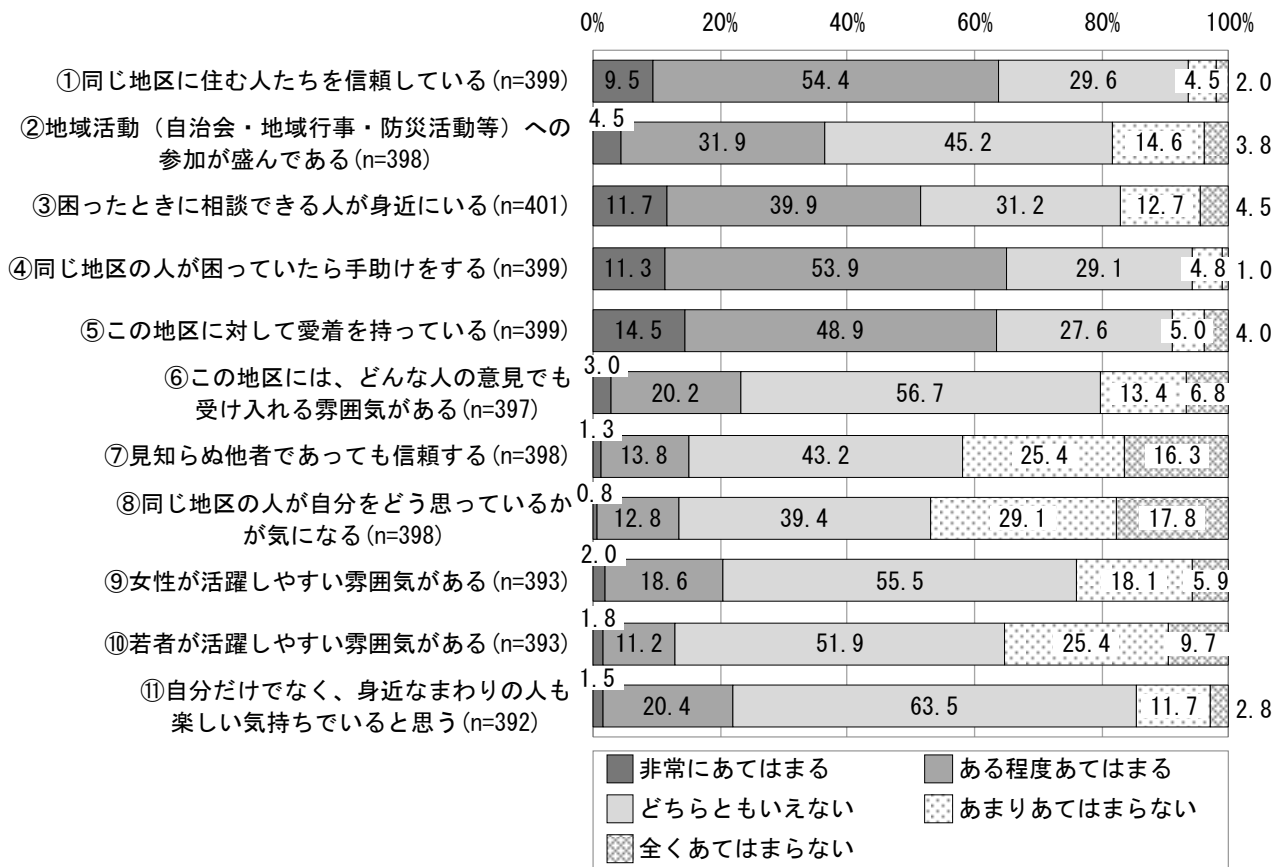
生活環境に関することで「非常にあてはまる」の割合をみると、<②身近に自然を感じることができる>が40.8%と最も高く、<③空気や水は澄んでいてきれいだと感じる>が35.1%と続いている。



非常にあてはまる
  ある程度あてはまる
  どちらともいえない
  あまりあてはまらない
  全くあてはまらない

## (2) 人間関係の満足度

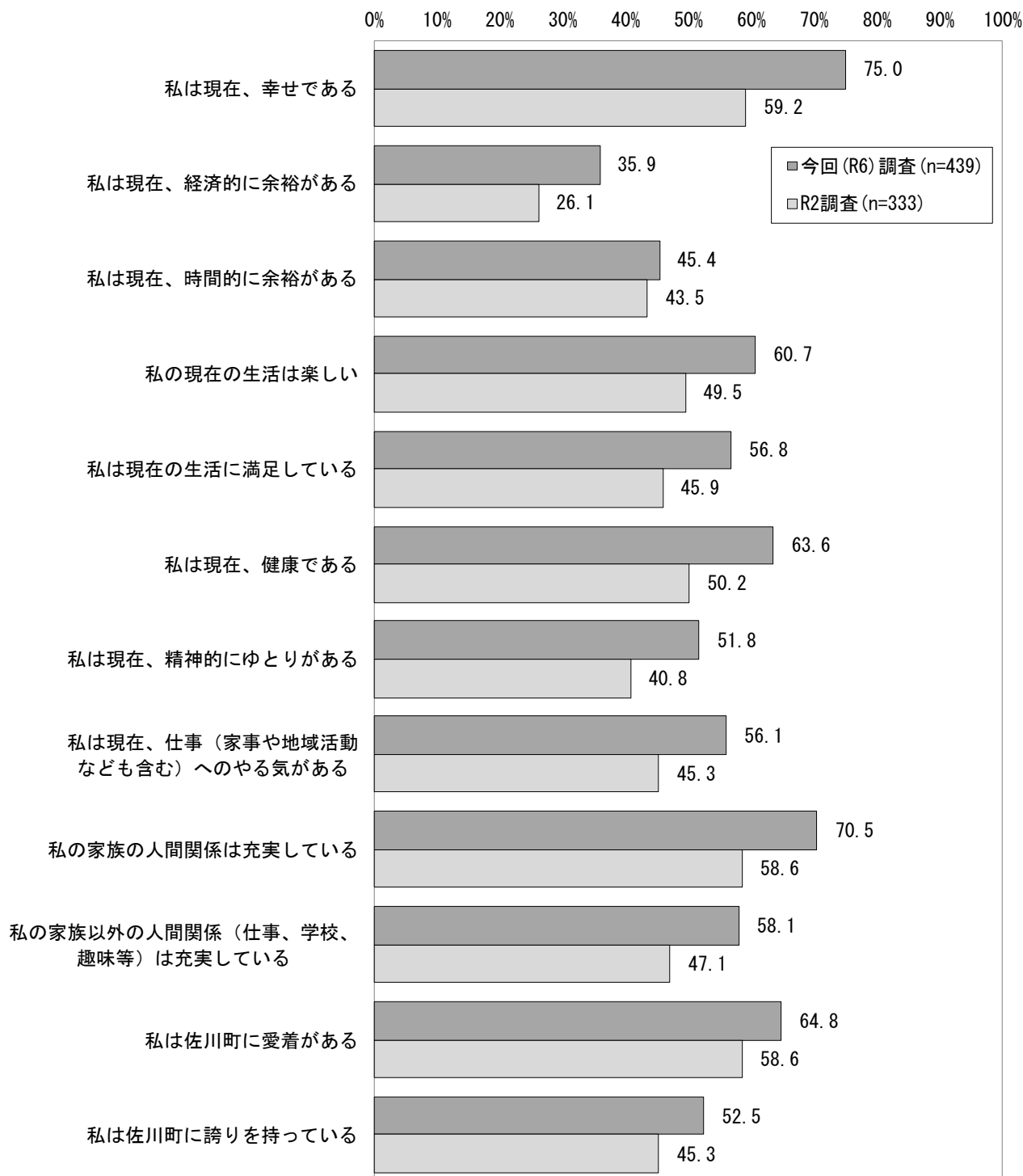
地区の人間関係に関することで「非常にあてはまる」の割合をみると、<⑤この地区に対して愛着を持っている>が14.5%と最も高く、<③困ったときに相談できる人が身近にいる>が11.7%、<④同じ地区の人が困っていたら手助けをする>が11.3%と続いている。



### (3) 自分らしい生き方

自身の幸福度について、＜私は現在、幸せである＞が75.0%と最も高く、＜私の家族の人間関係は充実している＞が70.5%と続いている。

経年比較では、すべての項目で前回調査よりも該当割合が高くなっている。

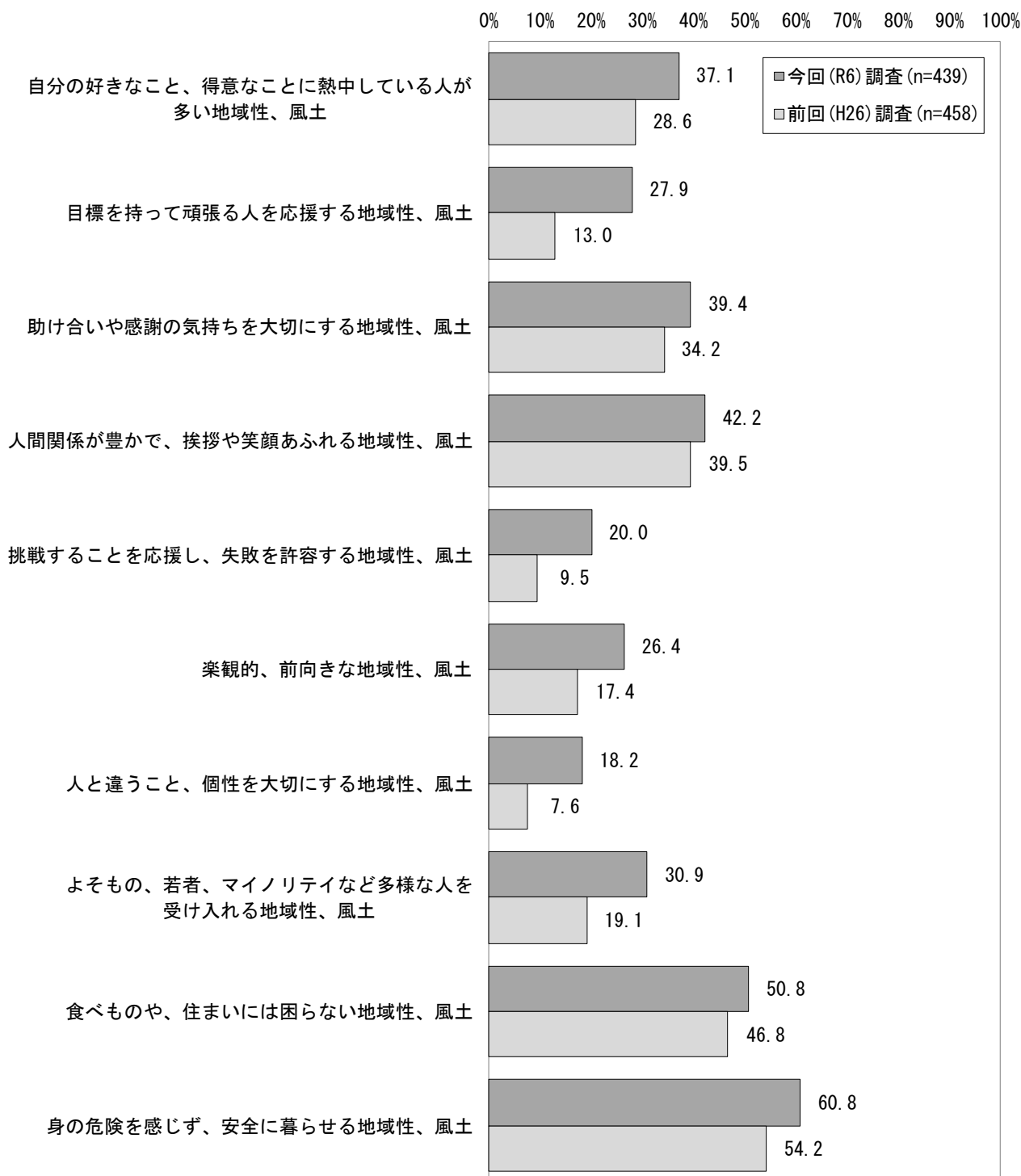


※アンケート項目の「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」の合計割合

#### (4) 佐川町の地域性、風土について

佐川町地域性、風土について、＜身の危険を感じず、安全に暮らせる地域性、風土＞が 60.8%と最も高く、＜食べものや、住まいには困らない地域性、風土＞が 50.8%と続いている。

経年比較では、すべての項目で前回調査よりも該当割合が高くなっている。

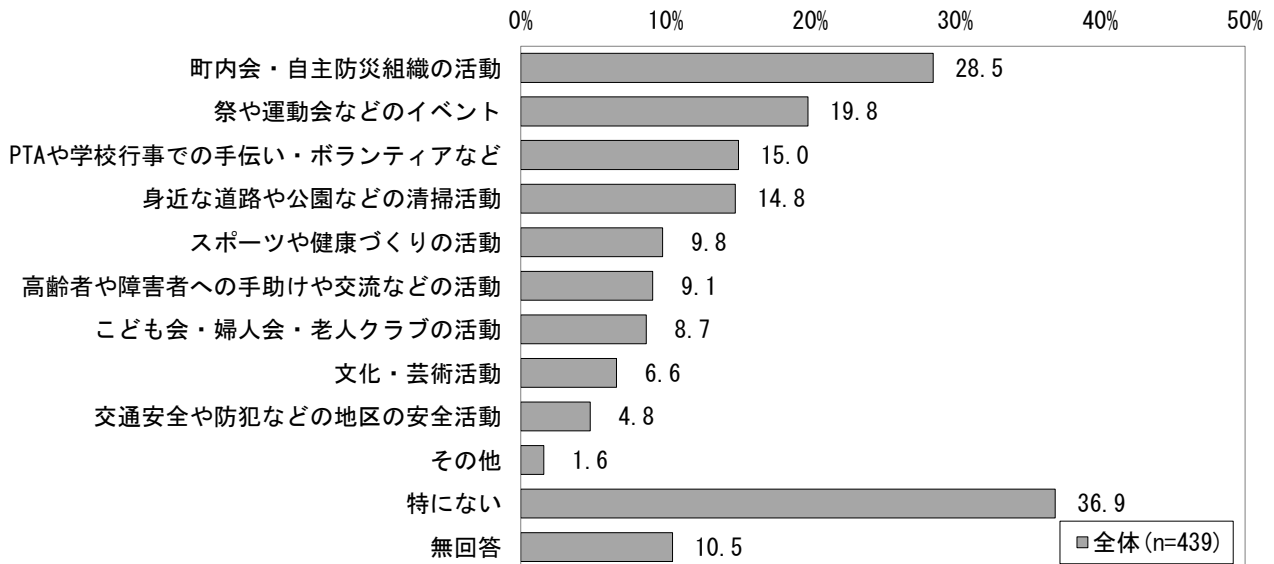


※アンケート項目の「非常にあてはまる」と「ある程度あてはまる」の合計割合

## 5. まちづくりへの意識

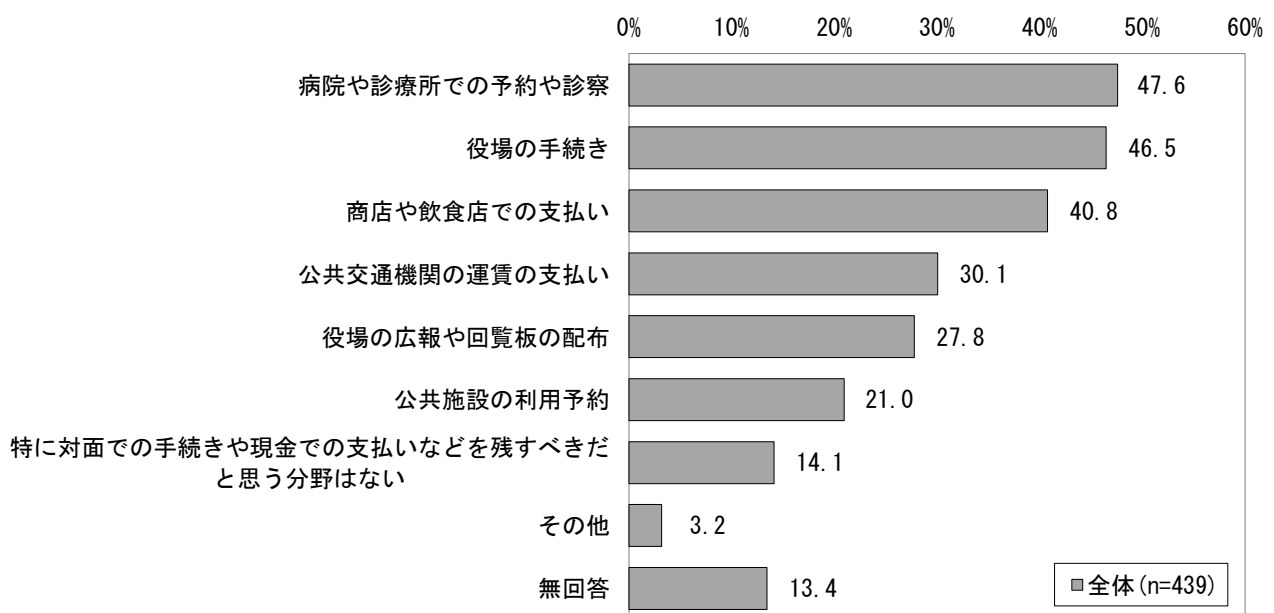
### (1) 町内活動への参加

町内での活動への参加状況を尋ねたところ、「町内会・自主防災組織の活動」が28.5%と最も高く、「祭や運動会などのイベント」が19.8%、「PTAや学校行事での手伝い・ボランティアなど」が15.0%と続いている。なお、「特にない」は36.9%となっている。



### (2) デジタル化に関する意識

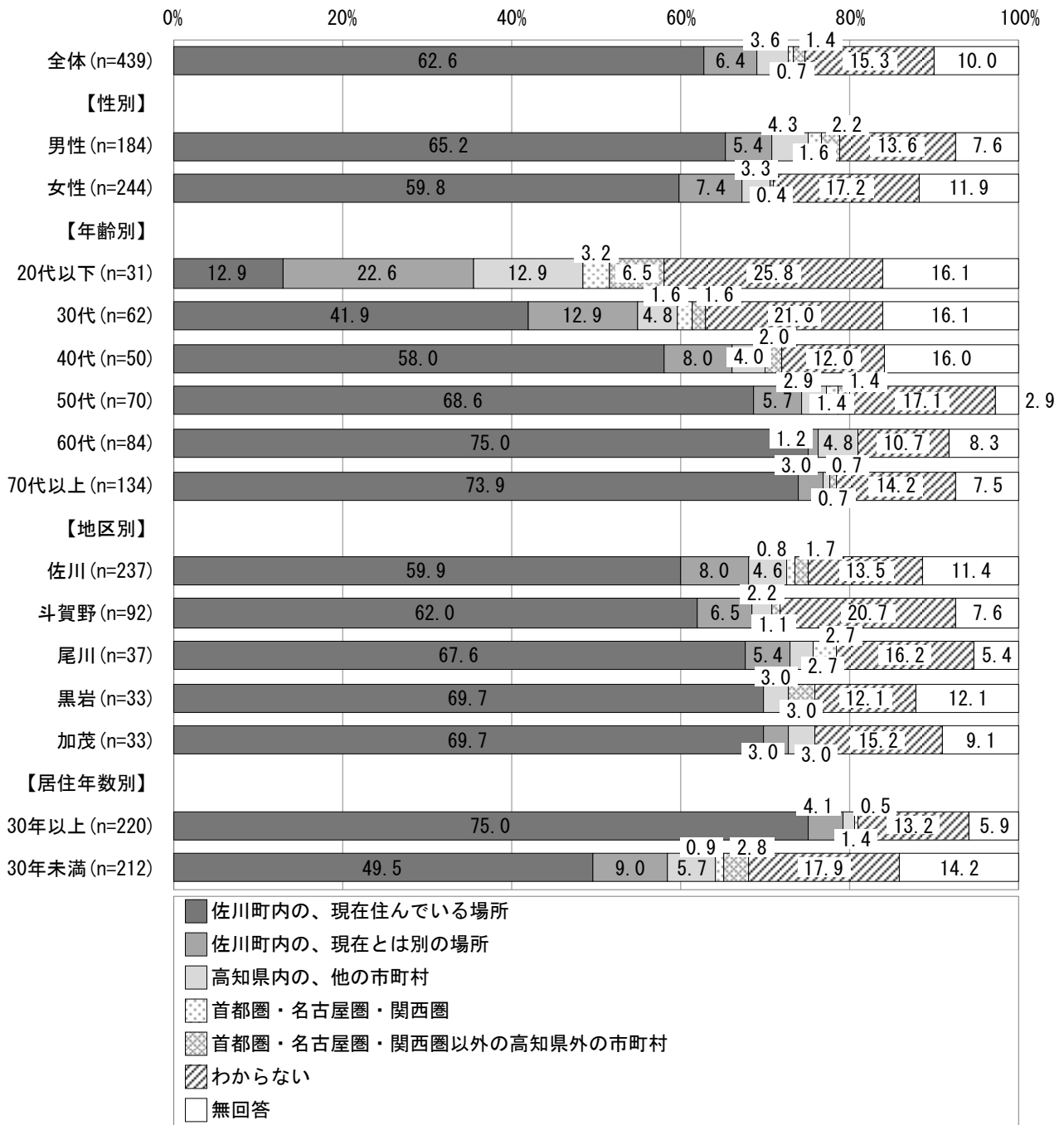
今後、町内のデジタル化が進むことを前提に、対面手続きや現金支払いを残すべき分野について尋ねたところ、「病院や診療所での予約や診察」が47.6%と最も高く、「役場の手続き」が46.5%、「商店や飲食店での支払い」が40.8%と続いている。



### (3) 町の将来像

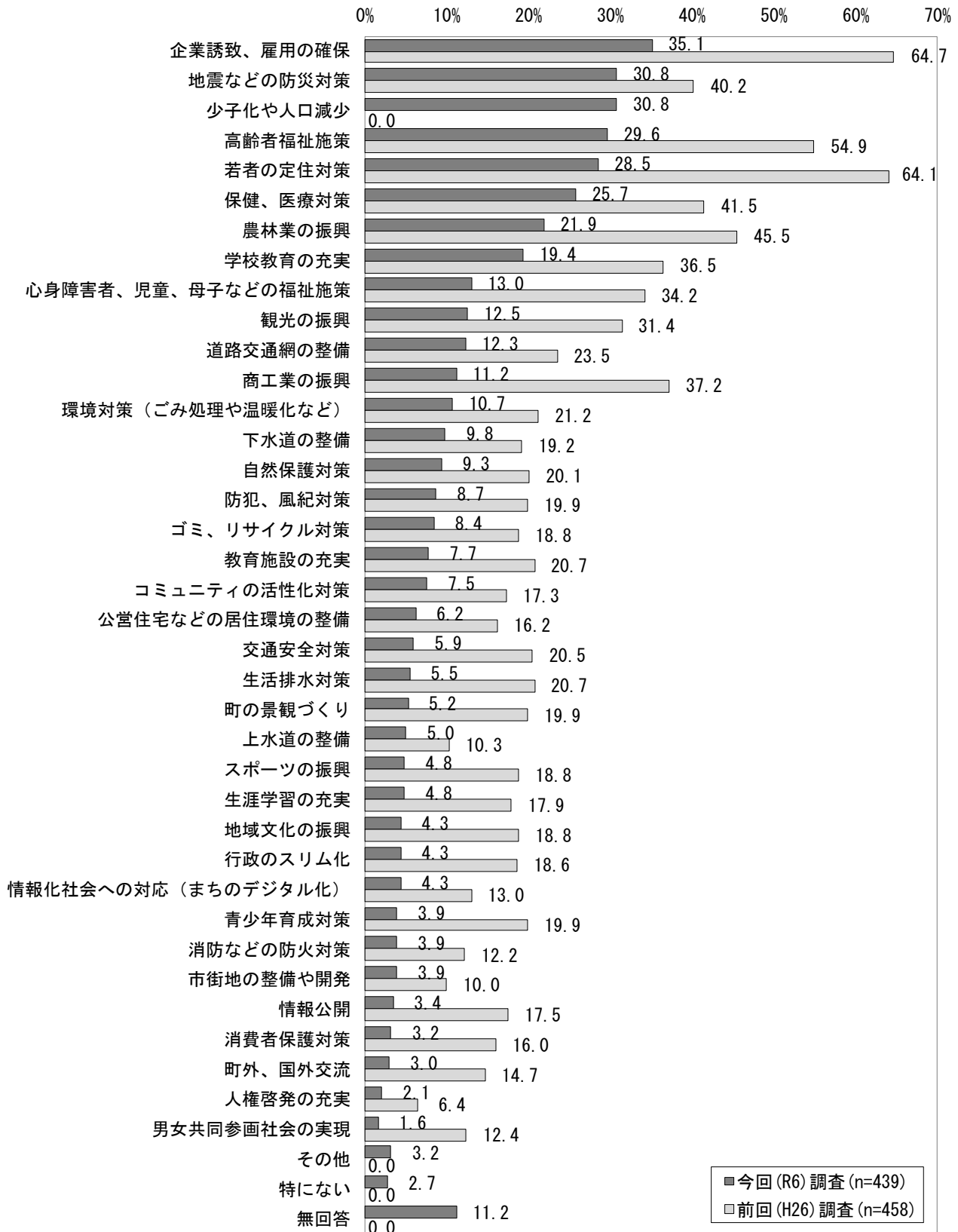
#### ■10年後の居住場所

10年後の居住場所について尋ねたところ、「佐川町内の、現在住んでいる場所」が62.6%と最も高く、「わからない」が15.3%、「佐川町内の、現在とは別の場所」が6.4%と続いている。



## ■今後10年間で力を入れて欲しい施策分野

また、今後の行政施策の優先分野としては、「企業誘致、雇用の確保」が35.1%と最も高く、「地震などの防災対策」と「少子化や人口減少」が、それぞれ30.8%と続いている。



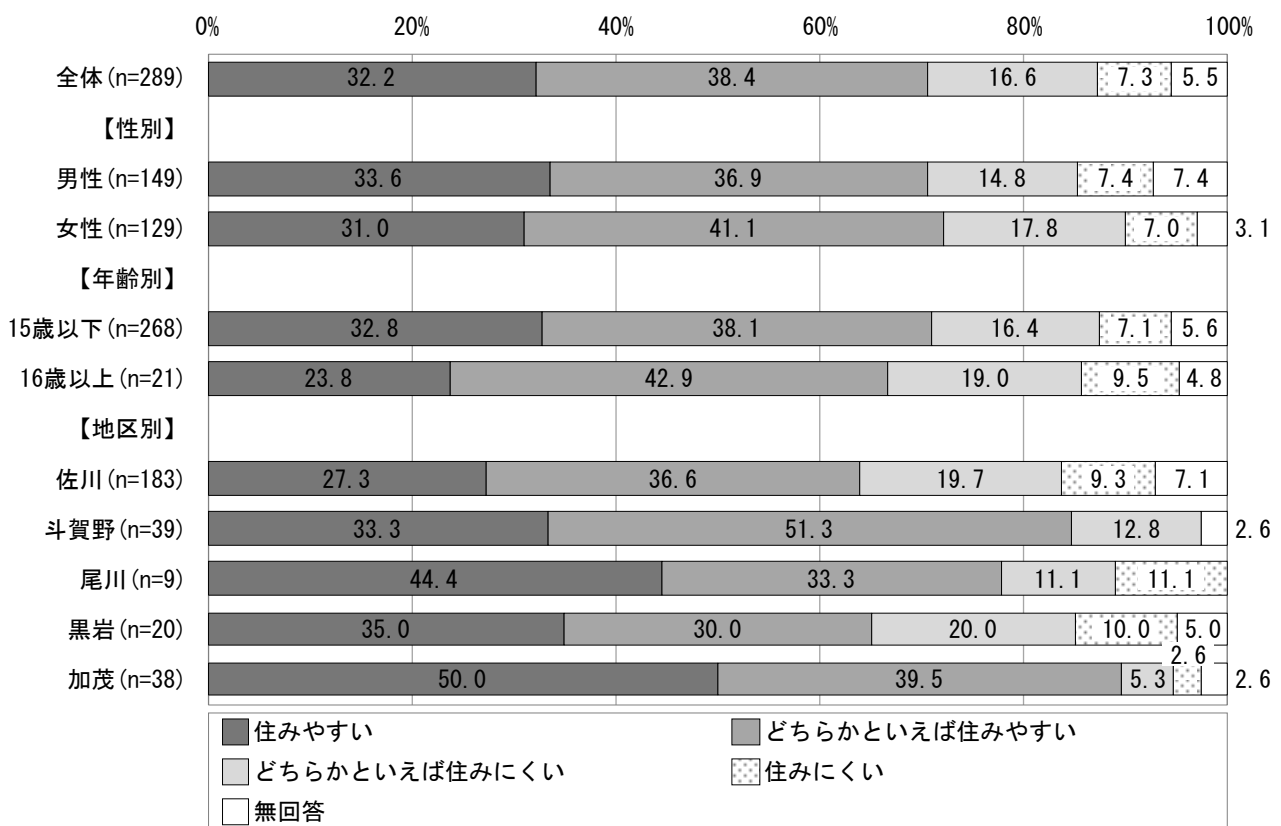
※「少子化や人口減少」は前回調査の項目にない

## 6. 若年層の意識

次世代（中高生）の調査については、以下のような結果が得られた。

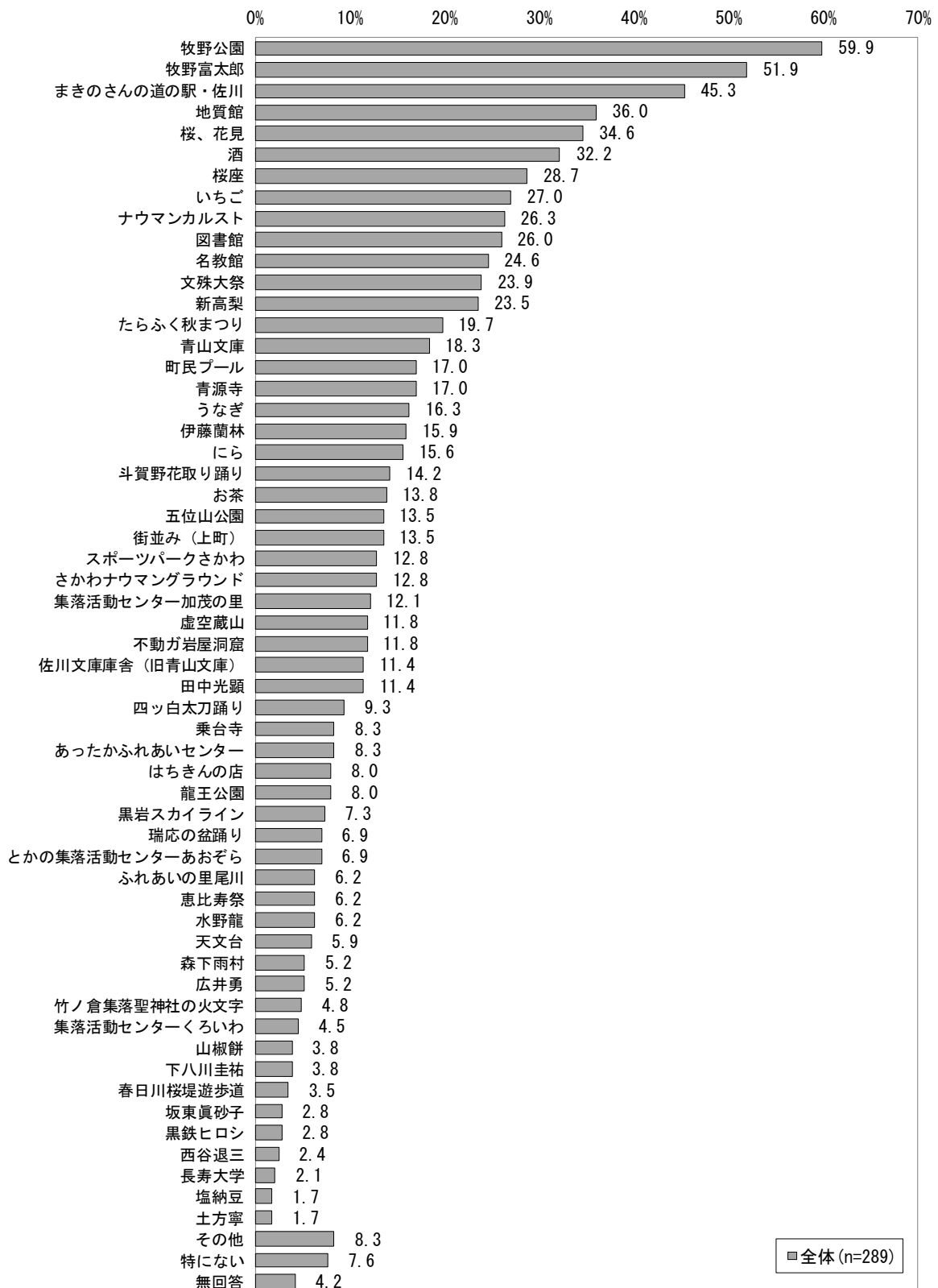
### (1) 住み心地

住み心地に関しては、「どちらかといえば住みやすい」が38.4%と最も高く、「住みやすい」が32.2%、「どちらかといえば住みにくい」が16.6%と続いている。「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」を合わせた『佐川町は住みやすい』は70.6%となっている。一方、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた『佐川町は住みにくい』は23.9%となっている。



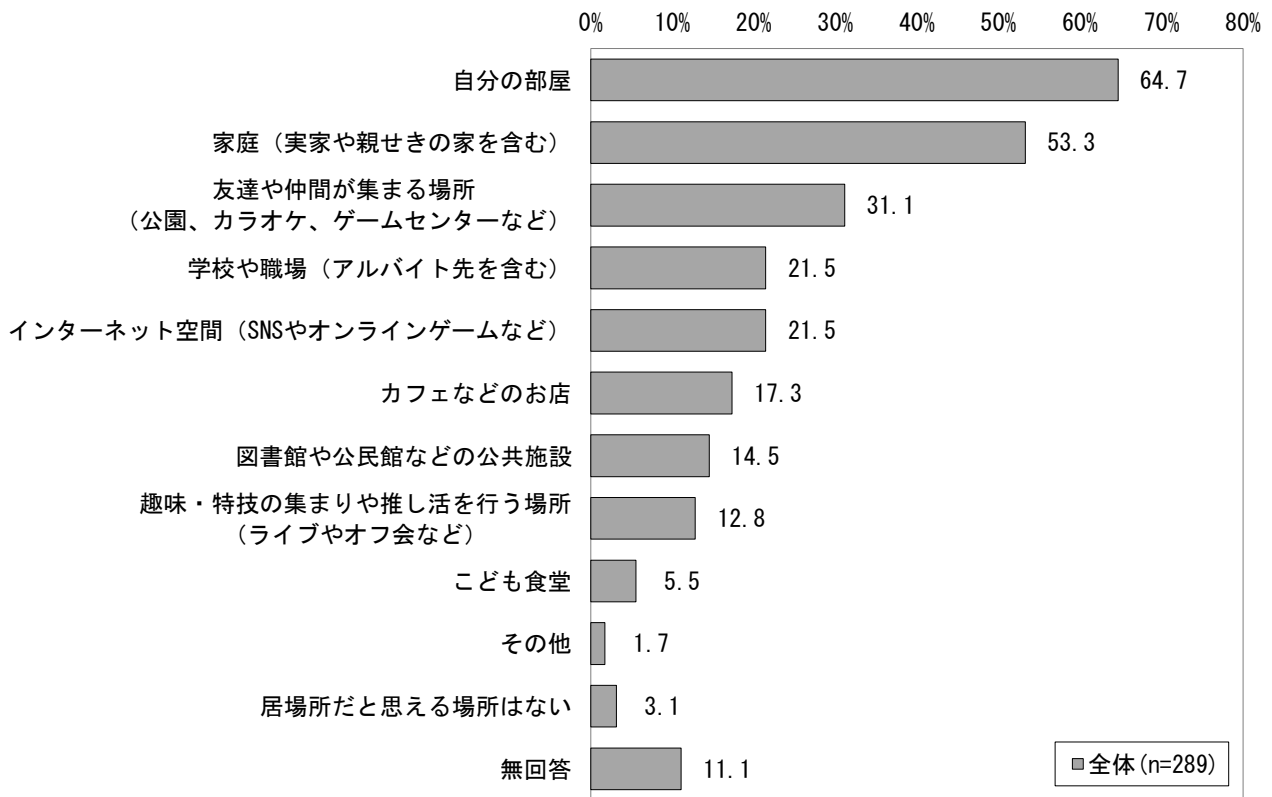
## (2) 佐川町の自慢

次世代の住民が考える佐川町の自慢は、「牧野公園」が 59.9%と最も高く、「牧野富太郎」が 51.9%、「まきのさんの道の駅・佐川」が 45.3%と続いている。

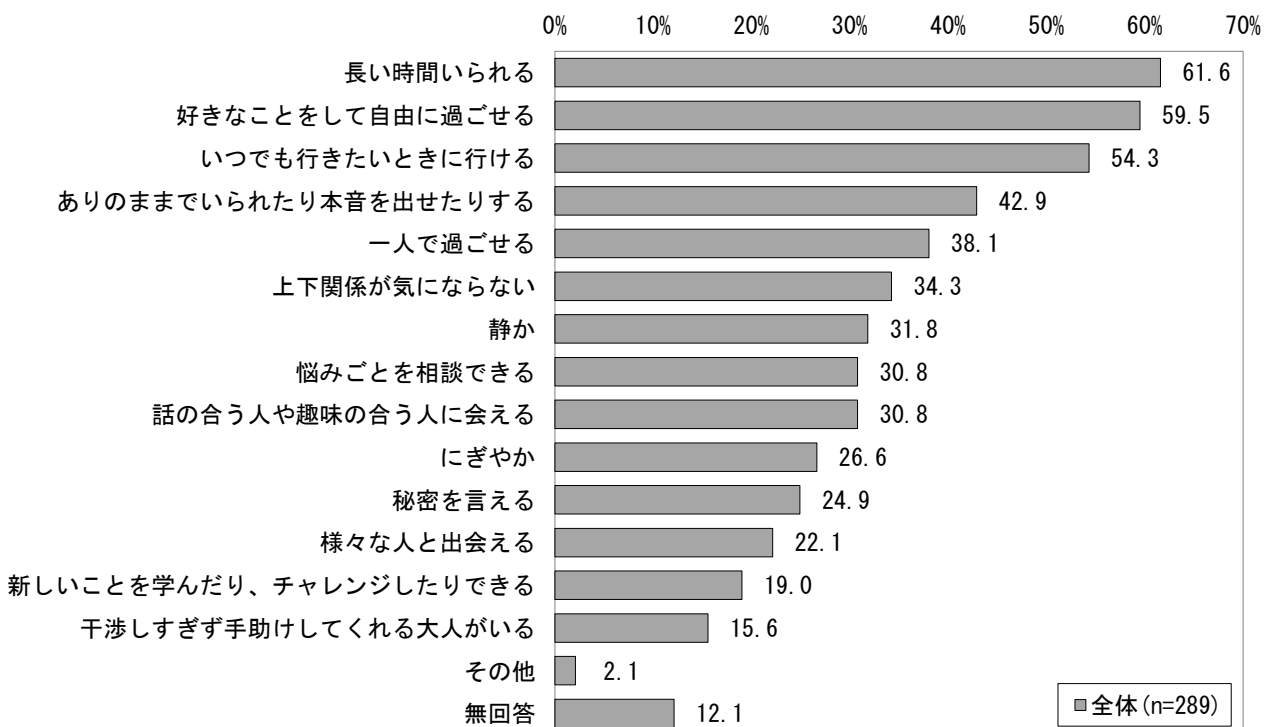


### (3) 若年層の居場所

若年層が感じる居場所としては、「自分の部屋」が 64.7%と最も高く、「家庭（実家や親せきの家を含む）」が 53.3%、「友達や仲間が集まる場所（公園、カラオケ、ゲームセンターなど）」が 31.1%と続いている。



また、居場所の条件として「長い時間いられる」(61.6%)や「好きなことをして自由に過ごせる」(59.5%)が重要視されていた。



#### (4) 町の将来への意識

町のデジタル化については、「商店や飲食店での支払い」が37.7%と最も高く、「役場の手続き」が34.3%、「病院や診療所での予約や診察」が30.1%と続いている。

総じて、若年層は自然環境を魅力としつつも、生活の利便性向上に課題を感じていることがわかる。

